

福井工業大学

後援会会報

Fukui University of Technology 2011

平成23年4月15日発行

福井工業大学
後援会 **42**
〒910-8505 福井市学園3丁目6番1号
電話(0776)29-7864
FAX(0776)29-7891
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

- 2 平成22年度 学位記授与式**
- 4 平成23年度 入学式**
- 6 【特集】新しい大学を目指して**
 - 1. 産業ビジネス学科新設
 - 2. キャリアセンター新設
 - 3. ラーニングコモンズ新設
- 10 研究室を訪ねて**
- 12 本学に赴任して**
新任若手教員
- 14 社会に貢献**
- 16 がんばってます**
平成22年度理事長賞受賞者
平成22年度学長賞受賞者
創成科学賞
特別奨励金
- 18 クラブ活動**
硬式野球部
- 19 各クラブの主要戦績**
平成22年度 体育部会
- 20 平成23年度 定期総会・地区懇談会のご案内**
申し込みはお早めに【お申込方法は22ページ】

学位記授与式



祝辞を述べる西川福井県知事

三月十五日午前十時から、

平成二十二年度福井工業大学の学位記授与式が、早春の晴れやかな雰囲気のなか福井県知事西川一誠様はじめ多数の来賓を迎えて、金井講堂において行われた。

城野学長から、大学院修士課程一人、大学院修士課程二七人、工学部三六八人に学位記が授与された。

つづいて、城野政弘学長、金井兼理事長から次のようなお祝いとはなむけの言葉がのべられた。また来賓を代表し

上り、城野政弘学長、

大学院から博士（工学）の学位を授与された高橋 梢さん、同じく修士

（工学）の学位を授与された二七名の方々、ならびに福井工業大学から学士（工学）の学位を授与された三六八名の方々にお喜びを申し上げます。

また、この日まで長きにわたって皆さんの方々の勉学と研究を支えてこられました、ご家族やご関係の皆様にも感謝いたしましたとともに、心からお祝いを申し上げます。

皆さんは、大学生活において、専門分野の勉学を通じた知識や経験の蓄

強い希望と思いをもつて、弛みない努力を重ねてほしい



学長 城野政弘

本日、ここに福井工業大学ならびに福井工業大学大学院の平成二十二年度学位記授与式を挙行するに当たり、年度末の大変お忙しい中、ご臨席いただいた来賓各位に厚く御礼申し上げます。

先ず始めに、ただいま福井工業大学大学院から博士（工学）の学位を授与された高橋 梢さん、同じく修士

（工学）の学位を授与された二七名の方々、ならびに福井工業大学から学士（工学）の学位を授与された三六八名の方々にお喜びを申し上げますとともに、一日も早い復

興を願っているものです。安全で安心な社会を築くことも大きな課題であります。

しかししながら、資源の豊かでない我が国が、その閉塞感を打ち破り、諸外国と競争しつつ共生し、かつ安全で安心な社会を築いていくためには、我が国でなければ出来ない、高い科学技術を基盤とした、持続可能で付加価値の高い「ものづくり」やそれに関連する産業の発展、あるいはセーフティネットの構築が重要となります。「技術創造立国」を掲げ、「ものづくり」で発展してきた我が国のありようをも

積とともに、皆さんの一生の財産となる数多くの出会いを通して大きく成長されたことと存じます。そして今後は、社会の様々な分野に進まれ、活躍されることと存じますが、皆さんが進んでいかれようとする社会は、今だに経済不況が続き、先行き不透明な状況を呈しています。また、グローバル化の進む中、諸外国の追い上げや格差社会の始まり、地球温暖化や深刻なエネルギー問題という大きな社会問題をも抱えた大変な時代を迎えています。さらには、つい先日起きた東北・関東大震災では多くの死者、行方不明者や社会的被害をこうむりました。未曾有の自然災害ではあるというものの、その広範囲に及ぶ被害の甚大さには言葉もありません。被害を受けられた皆様にお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を願っているものです。安全で安心な社会を築くことも大きな課題であります。

そこで、新しく社会や国作りといえば、幕末から明治へのわが国の開国、改革に大きな影響を与えた坂本龍馬や薩摩・長州を中心とする多くの若者の活躍は、昨年のNHKの大河ドラマ『龍馬伝』でも取り上げられ大きな関心を呼んだところであります。また、日清・日露戦争を通じて日本の近代化に大き貢献した秋山好古、真之兄弟の活躍を描いた司馬遼太郎の

『坂の上の雲』でも話題となりました。これらのドラマや小説が話題になるということは、世の中を覆う閉塞感の打破に対する人々の期待の一面を表していることとかと推測されますが、彼らは、遅れていたわが国の近代化を志し、西欧という目標、すなはち我が国でなければ出来ない、高い科学技術を基盤とした、持続可能で付加価値の高い「ものづくり」やそれに関連する産業の発展、あるいはセーフティネットの構築が重要となります。「技術創造立国」を掲げ、「ものづくり」でそれに続く近代工業国家としてのわが国の発展に大きく貢献したことは紛れもない事実です。そして現代においても、国や産業の発展には若者の方が必要です。しかしながら皆さんの置かれている状況は、彼らのおかれていた状況とは異なります。

う一度見直し、これを継続・発展させていくとともに、その中に新しい価値観を見出していくことが必要です。そして新しい社会を作り出してしていなくては、皆さんのような若者にしかできないことであり、今申し上げましたように、技術革新を発展の駆動力とする我が国においては、工業大学を卒業される皆さんへの期待が大きいものであります。

ところで、新しい社会や国作りといえば、幕末から明治へのわが国の開国、改革に大きな影響を与えた坂本龍馬や薩摩・長州を中心とする多くの若者の活躍は、昨年のNHKの大河ドラマ『龍馬伝』でも取り上げられ大きな関心を呼んだところであります。また、日清・日露戦争を通じて日本の近代化に大き貢献した秋山好古、真之兄弟の活躍を描いた司馬遼太郎の

『坂の上の雲』でも話題となりました。

これらのドラマや小説が話題になる

第一に上げている「創造力」であり、またそれを補完する「人間力」、「共生力」であります。

さてそのことをもう少し普遍的に申し上げますと、今、大学における人材育成に関しては、わが国の大学卒業生が諸外国の大学卒業生と比べて遜色のない「学習成果」を身につけています。かくかが問われています。國の中央教育審議会はそれを「学士力」とよび、専攻する分野における基本的な知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力や論理的思考力、倫理観を身につけ、市民として社会的責任を果たす力をもつことを求めています。本学ではこの「学士力」の養成として、専門分野における知識とともに「創造力」「人間力」「共生力」の三つの力を身につけていただくことをモットーとして皆さんの教育に当たってきました。

すなわち「創造力」とは、新しい問題に挑戦し、論理的・創造的思考力を

近代工業の発展により、経済大国として発展したわが国は、すでに「坂の上

に上っているのです。そして近隣の発展途上国からは、「坂の上の雲」としての激しい追い上げを受けています。そのうえ坂を駆け上がった広場には、進むべき明確な道筋は示されています。

そこで、新しく社会を作り出してしていなくては、皆さんのような若者にしかできないことであり、今申し上げましたように、技術革新を発展の駆動力とする我が国においては、工業大学を卒業される皆さんへの期待が大きいものであります。

ところどころで、新しい社会や国作りといえば、幕末から明治へのわが国の開

国、改革に大きな影響を与えた坂本龍馬や薩摩・長州を中心とする多くの若者の活躍は、昨年のNHKの大河ドラマ『龍馬伝』でも取り上げられ大きな関心を呼んだところであります。また、日清・日露戦争を通じて日本の近代化に大き貢献した秋山好古、真

之兄弟の活躍を描いた司馬遼太郎の

『坂の上の雲』でも話題となりました。

これらのドラマや小説が話題になる

第一に上げている「創造力」であり、

またそれを補完する「人間力」、「共生

力」であります。

さてそのことをもう少し普遍的に申し上げますと、今、大学における人

材育成に関しては、わが国の大学卒業生が諸外国の大学卒業生と比べて遜色のない「学習成果」を身につけています。かくかが問われています。國の中央教育審議会はそれを「学士力」とよび、専攻する分野における基本的な知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力や論理的思考力、倫

理観を身につけ、市民として社会的責任を果たす力をもつことを求めています。本学ではこの「学士力」の養成

として、専門分野における知識とと

ともに「創造力」「人間力」「共生力」の三つの力を身につけていただくことをモットーとして皆さんの教育に当たってきました。

すなわち「創造力」とは、新しい問題に挑戦し、論理的・創造的思考力を



兼 理事長 金井

本年度福井工業大学学位記授与式にあたりまして、卒業生の皆さんに一言お祝い申し上げます。

今ほど城野学長より、博士ならびに修士の学位をお受けになられた二八名の皆さん、そして、学士の学位記をお受けになられました三六八名の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございます。

心よりお祝い申し上げます。

そしてまた、この学位記授与式にあたり、大変公務ご多忙のなか、西川一誠福井県知事様をはじめ、県内外から多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、こうして厳粛に、また、盛大に学位記授与式が挙行できましたことを学園を代表して、心より厚く御礼申し上げます。

卒業生の目覚ましい成長と、本日の晴れやか門出を誰よりも喜んでおられるご家族、保護者の皆様方、まことにおめでとうございます。

そして、わが学園生を日夜温かく励まし、指導してくださった先生方、職員の皆様にも厚く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さんの中で「東北関東大震災」の被害を知らない方は一人もおられないでしょう。この卒業生の中にも被災地から来られた方もおられます。被害を受けられた方々に心よ

りお見舞い申し上げます。そして、卒業生の皆さんにはこうして学位記授与式に出席できたことを当たり前と思つてほしくありません。恐らく直接の被害を受けられた地域では、この学位記授与式あるいは、小・中・高校の卒業式すら開催できないかもしれません。そうした皆さんと同じ世代の方々がこの日本に多数生まれてしまつたことをどうか忘れないで下さい。

学長は今ほどの式辞の中、科学者として教育を受けられ、これから歩んでいこうとされる皆さんに対しても三つの力を話されました。私は社会人として、たかんとする皆さんに、違う言葉でこ

の力について申し上げたいと思います。これから皆さんが生きていく上で、知力、体力、気力と共に、もう一つ、誇りを持つことが大事であると思います。

この二月末、日・米・中・韓四カ国の高校生の意識調査が発表され新聞等に与式が挙行できましたことを学園を代表して、心より厚く御礼申し上げます。

卒業生の目覚ましい成長と、本日の晴れやか門出を誰よりも喜んでおられるご家族、保護者の皆様方、まことに似た考え方を持っているかもしれません

アメリカは、八割の高校生が「自分は必要ない人間だ、自分は立派な人間だ」と回答しました。しかし、残念ながらこの日本では、実に一ケタの割合いという結果でした。日本の学生・生徒、また、こうして最高学府を卒業していく皆さんは、決してそんな低い数値で表されます。

最後になりましたが、ご家族ご一家の繁栄と皆さん一人ももれなく、栄光の人格を輝かせながら「我が人生に

ます。しかし、何時までもこの状態が続くわけではなく、必ず復活をとげる日がきます。そこで必要なのは、自分は社会に必要な人間なのだという自信と誇りであり、それに知力、体力・行動力もう一つ気力・すなわち信念をもつてやり通す力が求められると思います。

恐らく、この地震の被災地で、これらの力が集結して復興に向けて大きな槌音を響かせることになるでしょう。そして、皆さんのが学んでこられた科学技術がそうした平和にこそ役立てなければなりません。どうかこれからも力を備えた立派な社会人として成長し続けて下さい。

今回の大地震では、原子力発電所の大きな事故も起きました。本学においても、原子力技術応用工学科十名の方が学士の学位をお受けになられました。この福井県にも多くの原子力発電所が設置されています。このような事故が二度と起きないよう、英知を結集すべきときだと思います。

今、皆さんのが羽ばたこうとする社会は、経済不況をはじめ、様々な難問に直面しています。

環境や状況が困難であればあるほど、挑戦の心と勇気はさらに大きくならなければなりません。

どうか皆さんの英知で、勇敢に、誠実に、そして忍耐強く、日本の繁栄、また世界平和に貢献できる人材に成長されることを心より期待しております。

最後になりましたが、ご家族ご一家の繁栄と皆さん一人ももれなく、栄光の人格を輝かせながら「我が人生に

通して、新しい技術、知識、価値を作り出していく能力です。常に自分で考える力を持ち、知識を応用する力を身につけ、能動的行動することが大切で、これが今申し上げた新しい社会を築いていく原動力となるのです。

「人間力」とは、広い視野と豊かな教養、倫理観を身につけ、も

うかんとくる能力です。広い観点から、何が人類社会にとって大切であるかを判断の基準として、主

題的に行動してください。

「共生力」とは、まわりの人とコミュニケーションをとりながら、他者とともに生きる力です。

異なる分野の知識を集め、あるいは異なる立場の人との相互理解や対話があつてはじめて、安全で安心な社会が築けるのです。

繰り返しになりますが、これから対話があつてはじめて、安全で安心な社会が築けるのです。

建学の精神に則り、国を愛し、人間性を養い、科学技術の研鑽に努めてこられました。これからは人類社会の福祉に貢献することを念頭に活躍されることを祈念して、学位記授与式の式辞といたします。

告示と致します。

皆さんも、長い人生、これからいろいろなことがあるかと思



喜びの新工大生 入学式

平成二十三年度

平成二十三年度

平成二十三年度入学式は、久しぶりに寒さの和らいだ春の日差しとなつた四月五日、多数のご来賓、保護者の皆様が見守られる中、大学院・工学部合

われた
まず、城野学長は、来賓の方々への
お礼に統いて、東日本大震災で被災さ
れたかたがたへのお見舞いの言葉を述べ、
新入生に対するお祝いと歓迎の挨拶をしてございました。

で勉強する中で一番大切なことです。入学早々では難しいかもしれません、が、常に自分で考え、解決法を見出していくことが大事だということを、念頭において勉学に励んで下さい。

ところで、皆さんには大阪にある適塾に学び、後、慶應義塾大学を創設した福沢諭吉をよく知つておられることがあります。「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云えり」で始ま

社会人として育つていっていただきたい
いと願っています。

方では、グローバル化の進む中、我が国の大卒業生が、諸外国の大卒業生と比べて遜色のない「学習成果」を身につけているかどうかが問われています。國の中央教育審議会は、それを「学士力」という言葉でよび、専攻する分野における基本的な知識を身につけるとともに、コミュニケーション能力や論理的思考力、自己管理力や倫理観を身につけ市民として社会的責任を果たす力をつけることを求めています。また、大学には、学生がこれらの力を確実に身につけたかどうかを検証するとして、初めて学士の学位を与えるなど、なむち卒業を認めるようにすることを

て、例えば数学や英語に関し、果たして工業大学で学ぶのに十分な学力がついているかどうか心配をしている方もいるかも知れません。したがって本学では、主要科目について、皆さんの学習歴に対応して、習熟度別クラス編成を行つて授業を進めます。また、さらに理解度が不足する場合には、学習支援センターを設け、個個的な学習指導を行つています。理解度に不安を感じたときは、遠慮せずに、担当教員の先生に相談するか、学習支援センターを訪ねてください。また、大学は優秀な学生さんに対しては、大学院一貫教育を実施し、高度な教育や大学院への接続教育を行つています。今全国的にみて理工系分野では、高度な技術者の養成が求められ、大学院教育が重視されてきています。本学でも大学院の充実にも努めていますので、是非大学院進学をも視野に入れて勉学に励んでください。

思っていることでしょ。しかがって
ここでは、まず大学で学ぶための心構
えについて少しお話をさせていただこ
うと思います。

いままで皆さんは高等学校での決められた教育課程、時間割のもとで、学習をしてきたと思いますが、大学では何を学ぶかは自分でできることになります。また、今までは答えがひとつであり、確かに答えのある問題を解いてきたと思いますが、太学では何が答えであるかを自ら見つけることが大事になります。一つのことを解決するための手段や方法はたくさんあります。多くのやり方や手段がある中から一番良い方法が何であるかを考えなければならないことになります。この「何が一番良いもの」であるかを考え、その答えを見つける力を養うことが、大学

今皆さんには、福井工業大学の門をくぐり、科学技術やそれに関連する事柄を学ぶ機会を与えられております。そのチャンスを生かしつづけ、勉学を深めることにより、立派な技術者



に関する科学や技術を学ぼうとする皆さんに対する期待は大いものです。

「学ぶか学はないかに
よつてできるもので
ある」と明確に述べ
ています。

る貧しい人を富める人をもしてた、社会的に地位の高い人も、低い人もいる。こうした雲泥の差と呼ぶべき違いはどうしてできるのだろうか」と問い合わせ、その理由として、その違いは、

作りを進めていくことが必要であります。また、災害のない安全で安心な社会を築くためにも、災害を科学的に検証し、人々の社会生活を考えつつ、科

配布いたします。「学びの指針」をよく読み、自らの学ぶべき事柄、学びの方法をよく理解してください。

また、前述する経済状態から企業への雇用状態が大変厳しい中、皆さんには、社会へのスマートな移行のために、社会的・職業的自立能力を身につけることも要求されています。そのため本学では、新しくキャリアセンターを開設し、皆様のキャリア教育や就職支援に、教職員が一体となって当たることにしています。

通じて是非、この国の人文化と伝統を大切にし、節義を重んずる人格を磨き、科学技術の研鑽に努め、以つて人類社会の福祉に貢献するという「建学の精神」を実現出来る技術者として育つていただきたいと願っています。

また、近年の特徴として多様な高等学校の課程で学習した学生さんが入学されています。自分の学習歴を考える

ものをそのまま受け入れるだけではなく、自分自身で何をしたいのかという目的を持つて、何事にも積極的に取り組んで下さい。

また大学とは、単にそこで授業を受けるだけのところではありません。人との深い交わりを通じて、豊かな情操を養うところでもあります。その交わりは、勉学、課外活動、スポーツなど

大切なカリキュラムを用意するなども、皆さん一人一人に対し最適切だと考える教育や指導・支援を行うことを考え、教職員一体となって、出来る限りの用意をしています。しかしながらそれを生かすのは皆さんのがけ次第です。これはいつもも言うのですが、大学が何をしてくれるかではなく、大学で何をするかが皆さんにとって最も大事なことです。大学から与えられるものをそのまま受け入れるだけではなく、自分自身で何をしたいのかという目的を持つて、何事にも積極的に取り組んで下さい。

多くのやり方や手段がある中から一番良い方法が何であるかを考えなければならぬことになります。この「何が一番良いもの」であるかを考え、その答えを見つける力を養うことが、大学

ぶ機会を与えられて
います。そのチャン
スを生かし、ぜひ、
勉学を深めることに
より、立派な技術者

「神」を実現出来る技術者として育つていただきたいと願っています。

また、近年の特徴として多様な高等学校の課程で学習した学生さんが入学されています。自分の学習歴を考える

の学生生活から生まれるもので、これらは活動を通じて、人生を考え、自然や人間の素晴らしさに感動できる心を育てることができます。学生時代の四年間あるいは大学院での二年間を含めますと六年間になりますが、これほど時間を自由に使えるときはないでしょう。高校時代は決められた授業や受験勉強で、また社会に出れば企業の規則に縛られそんなに自由に過ごすことはできません。大学時代は自分自身で時間の使い方を決めることができる最も大切な期間です。漫然と無為に過ごすのではなく、目的意識をもって、豊かで楽しい学生生活を送られることを期待して式辞といたします。

次いで、金井兼理事長は「穏やかな春の陽ざしに恵まれたなかでの入学式本当におめでとうございます。また、ご両親、ご家族の皆様に心からお祝い申し上げます。

約一ヶ月前に、東日本一帯を襲う未曾有の大災害が発生しました。皆さんと同様にこの大学を受験された受験生にも東日本出身の方がおられました。そしてまた、この大災害で尊い命をおとされた多くの方がおられます。今日こうして入学式が挙行できることに感謝しながら、尊い命をおとされた皆さんに、また、被災された皆様方に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この災害の中で、原子力発電所の大変な事故も起きました。新入生の皆さんも、この惨状を理解していると思います。この事故を契機に、日本の原子力エネルギー政策は大きな転換期を迎えるかもしれません。これだけの尊い命が奪われ、これだけの犠牲をはらったこの大災害を教訓として今後にいかなければなりません。

の学生生活から生まれるもので、これらは活動を通じて、人生を考え、自然や人間の素晴らしさに感動できる心を育てることができます。学生時代の四年間あるいは大学院での二年間を含めますと六年間になりますが、これほど時間を自由に使えるときはないでしょう。高校時代は決められた授業や受験勉強で、また社会に出れば企業の規則に縛られそんなに自由に過ごすことはできません。大学時代は自分自身で時間の使い方を決めることができる最も大切な期間です。漫然と無為に過ごすのではなく、目的意識をもって、豊かで楽しい学生生活を送られることを期待して式辞といたします。

次いで、金井兼理事長は「穏やかな春の陽ざしに恵まれたなかでの入学式本当におめでとうございます。また、ご両親、ご家族の皆様に心からお祝い申し上げます。

約一ヶ月前に、東日本一帯を襲う未曾有の大災害が発生しました。皆さんと同様にこの大学を受験された受験生にも東日本出身の方がおられました。そしてまた、この大災害で尊い命をおとされた多くの方がおられます。今日こうして入学式が挙行できることに感謝しながら、尊い命をおとされた皆さんに、また、被災された皆様方に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

この災害の中で、原子力発電所の大変な事故も起きました。新入生の皆さんも、この惨状を理解していると思います。この事故を契機に、日本の原子力エネルギー政策は大きな転換期を迎えるかもしれません。これだけの尊い命が奪われ、これだけの犠牲をはらったこの大災害を教訓として今後にいかなければなりません。

日本は有史以来、幾度となく大災害にみまわれております。皆さんの記憶に新しいところでも、阪神淡路大震災があります。

福井県においても、この学園が開校する前年の昭和二十三年、大地震に襲われました。その前には、大変不幸な第二次世界大戦があります。日本本土のほとんどが焼失しました。しかし、これらの苦難を乗り越え、日本は復興して今日の姿になりました。

どうしてこのような小さい島国である日本が、戦後半世紀で世界第二位の経済大国に成長したのか、阪神淡路大震災のあと、数年で今日の姿に復興したのか、それはひとえに、皆さんがこれから学ぼうとする科学技術の力と、日本人がもつ勤勉さに負うところが大きいと認識しています。

皆さんには、これから工学という学问を学ぶにあたり、この勤勉さを遺憾なく發揮していただきたいと思います。

日本の青年は、世界の國々の中で、ややもすると、自分を卑下した見方をしていました。今日より高等教育のスタートを切られたわけですが、どうか自信をもって、誇りをもって、教育研究に邁進していただき、我が学園の建学の精神にある人類社会の福祉に貢献する人材として成長されることを心より願っています。

大事な皆さん方です。思うようにかない時も、一歩また一歩と前へ踏み出す挑戦の勇気をもやしていくことを忘れないで下さい。

皆さん方の晴れやかな前途を私は全幅の信頼と期待をもって見守つてしまります。

そして、皆さんのような若い力によつて、元気な日本が再びもどつくることを心より願つています」とお祝いの言葉を述べられた。

(新着任) 平成二十三年四月一日付

機械工学科教授 原 茂太

機械工学科教授 塩澤和章

土木環境工学科教授 小笛 泰

産業ビジネス学科教授 横谷智久

土木環境工学科教授 花崎紘一

環境生命化学科教授 建築工学科教授

江川隆進

原子力技術応用工学科教授

畠山兵衛

デザイン学科准教授 安嶋 諭

田中光雄

教養部准教授 伴 浩美

山中龍彦

建築学科講師 中野民雄

南園忠則

産業ビジネス学科講師 野口雄慶

黒田英三

教養部講師 坂本伸子

鉢之原善章

教養部講師 トムソン・サム

高橋正紘

教養部講師 于 建民

永野康行

教養部講師 王 愛武

杉本武夫

(退任) 平成二十三年三月三十一日付

電気電子情報工学科教授 多田紘二

コバーン・マーク

電気電子情報工学科教授 波々伯部圭佑

邵展眉

機械工学科教授 河合伸泰

福井工業大学 人事異動

特集

新しい大学を目指して



学長 城野政弘

二十一世紀は、社会のあらゆる分野で、新しい知識と情報・技術がますます重要な知識基盤社会であるといわれているが、それを支える技術者、研究者の養成が不可欠であり、工学系大学の果たす役割は以前にも増して重要となっている。本学では、開学以来、ものつくり、社会を担う技術者の育成を目指してきたが、近年の諸外国の追い上げを考えると、さらには高度な、わが国でなければできない付加価値が高く、持続可能な社会を支える「ものつくり」が必要となってくる。そのためには、単に「もの」の効率や経済性のみでなく、どのようなコンセプトでつくるかということも重要なこととなり、本学では一昨年デザイン学科を開設した。さらに昨今の技術競争を考えるとき、開発した技術を産業やビジネスの場で活用できる人材育成が重要となっていることから、本年度産業ビジネス学科の新設を行った。これにより、デザインから技術開発、そしてそれをビジネスの場で生かす総合的な技術教育、人材育成が可能となるもの

と考えている。

二十一世紀は、社会のあらゆる分野で、新しい知識と情報・技術がますます重要な知識基盤社会であるといわれているが、それを支える技術者、研究者の養成が不可欠であり、工学系大学の果たす役割は以前にも増して重要となっている。本学では、開学以来、ものつくり、社会を担う技術者の育成を目指してきたが、近年の諸外国の追い上げを考えると、さらには高度な、わが国でなければできない付加価値が高く、持続可能な社会を支える「ものつくり」が必要となってくる。そのためには、単に「もの」の効率や経済性のみでなく、どのようなコンセプトでつくるかということも重要なこととなり、本学では一昨年デザイン学科を開設した。さらに昨今の技術競争を考えるとき、開発した技術を産業やビジネスの場で活用できる人材育成が重要となっていることから、本年度産業ビジネス学科の新設を行った。これにより、デザインから技術開発、そしてそれをビジネスの場で生かす総合的な技術教育、人材育成が可能となるもの

と考えている。

また一方では、グローバル化の進む中、我が国の大卒業生が、諸外国の大卒業生と比べて遜色のない「学習成果」を身につけているかどうかが問われている。国の中央教育審議会は、それを「学士力」という言葉でよび、大学には、学位の授与に際し、真に「学士力」を身につけたことを検証することを求めている。

本学では、これらの力を「創造力」「人間力」「共生力」と呼び、専門分野における知識とともに、これら三つの力を

身につけることを目標とし、そのためには、単に「もの」の効率や経済性のみでなく、どのようなコンセプトでつくるかということも重要なこととなり、本学では一昨年デザイン学科を開設した。さらに昨今の技術競争を考えるとき、開発した技術を産業やビジネスの場で活用できる人材育成が重要となっていることから、本年度産業ビジネス学科の新設を行った。これにより、デザインから技術開発、そしてそれをビジネスの場で生かす総合的な技術教育、人材育成が可能となるもの

応を行うことが要請されている。本学では従来から教養科目やFTHにより社会的自立能力を養うとともに、就職支援課が中心となり、キャリア形成の支援を行ってきたが、本年度からは、さらに一歩進め、大学にキャリアセンターを新設し、教職員が一体となつて学生のキャリア教育・支援を行うべく組織改革を行つた。保護者の皆様におかれましても、ご理解、ご支援をお願いする次第です。

本学では、これらの力を「創造力」「人間力」「共生力」と呼び、専門分野における知識とともに、これら三つの力を身につけることを目標とし、そのためには、単に「もの」の効率や経済性のみでなく、どのようなコンセプトでつくるかということも重要なこととなり、本学では一昨年デザイン学科を開設した。さらに昨今の技術競争を考えるとき、開発した技術を産業やビジネスの場で活用できる人材育成が重要となっていることから、本年度産業ビジネス学科の新設を行つた。これにより、デザインから技術開発、そしてそれをビジネスの場で生かす総合的な技術教育、人材育成が可能となるもの





産業ビジネス学科主任 野村康則

1

産業、ビジネス学科新設

四月より産業ビジネス学科がスタート致しました。産業ビジネス学科誕生までに、設立準備委員会で丸二年間の月日をかけてようやくスタートが出来たものです。特に時間をかけて検討したことは、新学科の設立主旨が文部科学省の大学設置基準に合致しており、教育内容がその学習指導要領に沿ったもので、且つ新学科が目指す教育内容と学生の就職進路がうまくマッチングした教育体系となっているか、という点です。最終的なゴールは新学科に入学した学生が我々の求める人材像通りに育ち、また必要な資格が取得でき、卒業時に全員が希望する所へ就職できることです。今から4年後にその真価が問われることになります。新学科の定員は五〇名で、「地域共生ビジネス工学コース」と「スポーツビジネス工学コース」の二つの専攻を備えています。産業ビジネス学科で卒業に必要な単位を修得し、中核科目の目標到達度の認証を受け、更に卒業研究に合格した学生には学士「工学」の学位が授与されます。科学技術立国であるわが国

で学士「工学」の学位が得られるということは就職に大変有利であると思いまます。

産業ビジネス学科は工学部にありながら、文系的な要素も備えた初の文理融合型教育実践の場ということが出来ます。理系向きの学生は経営・財務を学び、文系向きの学生には工学基礎を培養することで企業人としてオールマイティーな実務人材の育成が目的です。「スポーツビジネス工学コース」は、決してスポーツ選手を育成する学科ではありません。飽くまでスポーツという学問を通じてスポーツビジネス界で活躍できる人材育成がその目的です。

これから日本を支える人材に要求されることは、経営マインドを持つものづくり志向が出来るる右腕人材です。右腕人材とは技術が理解でき、経営財務や労務について造詣が深い人材を指します。新学科はまさに右腕人材育成の場に相応しい学科と言えます。産業ビジネス学科で育った学生が地域企業で活躍し、引いては地域活性化に貢献出来、日本の社会を元気にして欲

しいものです。また女子学生にも産業ビジネス学科の門を叩いて戴けるようになります。全く新しい概念の画期的な工学部における学科と言えます。後援会の皆様方には紙面をお借りし、産業ビジネス学科の御支援方宜しくお願い申し上げます。



産業ビジネス学科の教員

2

キャリアセンター新設



キャリアセンター長 島田幹夫

本年四月一日付けて、「キャリアセンター」が新設されることになりました。本「センター」(以下、「センター」と呼ぶ)の設立の背景、目的や業務内容の概略を紹介させていただきます。

まず、社会的背景から見ますとリーマンショック以来、低迷する厳しい雇用状況下において、学生の資質能力・向上を求める社会からの要請、学生の多様化に伴う卒業後の移行支援の必要性等を含め、大学には教育課程内外を通して社会的・職業的自立に向けた指導に取り組み、そのための体制を整えることが要請されています。これを受けて、平成二十年三月には、文部科学省中央教育審議会は、学生支援の充実、職業指導の明確化の方向性を提示しており「学士力」の強化を学士課程教育(「入り口」「中身」「出口管理」)の改革として適切に位置づけることを要請しています。さらに、文科省は大学設置基準の改正(本年四月一日施行)により、学生への「職業指導(キャリアーガイダンス)」を大学・短大に義務化することを定めました。

本学は平成十九年の認証評価において、教育課程・職業指導に対しても良い評価がなされていますが、今回の改正をきっかけに、「キャリア」教育を見直し、

本年四月一日付けて、「キャリアセンター」が新設されることになりました。本「センター」(以下、「センター」と呼ぶ)の設立の背景、目的や業務内容の概略を紹介させていただきます。

まず、社会的背景から見ますとリーマンショック以来、低迷する厳しい雇用状況下において、学生の資質能力・向上を求める社会からの要請、学生の多様化に伴う卒業後の移行支援の必要性等を含め、大学には教育課程内外を通して社会的・職業的自立に向けた指導に取り組み、そのための体制を整えることが要請されています。これを受けて、平成二十年三月には、文部科学省中央教育審議会は、学生支援の充実、職業指導の明確化の方向性を提示しており「学士力」の強化を学士課程教育(「入り口」「中身」「出口管理」)の改革として適切に位置づけることを要請しています。さらに、文科省は大学設置基準の改正(本年四月一日施行)により、学生への「職業指導(キャリアーガイダンス)」を大学・短大に義務化することを定めました。



本学の就職支援システムをさらに強化する体制を整えることになりました。即ち、「センター」(一号館三階)では、センター長の下、センター員一同(就職支援課職員、就職支援担当およびキャリアコーディネーター教員)は一体となって協力・協働・連携して、「センター」の運営にあたります。その目的は、まさに就職率の改善を目指すと共に、「学生のキャリア形成および就職支援のための事業を



- 企画・立案・推進し、本学の教育に資すると共に、本学学生の社会的および職業的自立を支援すること」にあります。
具体的な「センター」の業務(取り組み)内容として、
①「キャリア教育」の企画(インター
ンシップ制の充実、新しい授業科目の
導入とカリキュラムの見直し)
- ②各種支援プログラム
- ③学生のキャリアカウンセリング
- ④大学院生のキャリアサポート
- ⑤既卒者、就職留学生及び研究生など
への就職支援

を目指しております。



図書館長 齋藤敏明



3

ラーニングコモンズ新設

学生諸君の教育や学習のための大学図書館の役割は、従来は種々な学術情報と静かな環境を提供し、学生諸君が主体的に勉学に励むことができる場を提供することであった。一方、最近の学生諸君には

インターネットを駆使し、仲間と相談しながらレポートなどを作成する学習スタイルが拡がっている。また、図書館の学術情報

をもつと生かした授業を行いたいという声もある。こうしたグループ学習や授業を図書館でも可能とした場がラーニングコモンズ（学びの共有の場）と呼ばれるものである。

本学図書館においてもこのようなシステムを導入すべく検討を行つてきたり、この度、学園の理解を得て新しいスペースが確保できることになり、従来の静謐な環境を保ちつつラーニングコモンズが新設できることとなつた。以下にその概要をご報告する。

図書館ラーニングコモンズ
場所 FUTタワー3階
図書館資料を自由に利用して、グループ学習、個人学習、パソコン作業、プレゼンテーションなど幅広い学習活動を行なえる場所がラーニングコモンズです。自分の学習スタイルに合わせて、「静」の空間である従来の

図書館との場所をうまく使い分けてください。ラーニングコモンズは機能別に5つのスペースに分けられています。それぞれのスペースの活用法を紹介します。

1. コラボレーションスペース

学生同士が、気軽にコミュニケーションを取り、考えをまとめあげる学習が行なえるスペースです。可動式のテーブルや椅子、ホワイトボードを使い、様々な人数に対応したグループワークを行なうことができます。LAN環境が整えられ、個人所有のパソコンで情報検索や資料作成も自由に行なうことができます。図書や雑誌の図書館資料も持ち込んで利用することができます。

4. インフォメーションラウンジ
図書館とラーニングコモンズをつなぐ渡り廊下部分に設けられたスペースです。掲示や展示による、様々な図書館情報の配信を行なっています。

5. カウンタースペース

図書館職員が待機し、施設の利用案内やIT機器利用のサポート、また、情報検索の指導など、利用者の様々な質問・相談に対応しています。

2. プrezentationスペース

15人ほどが入る個室で、プロジェクター、スクリーンなどのプレゼン機器を利用して、グループやゼミ単位で様々な発表を行なうことができます。視聴覚機器も備えられ、グループでのDVD鑑賞も可能です。

3. AVコーナー

図書館3階にあったAVコーナーをラーニングコモンズに移設しました



ゾーニングと活動

た。個人用ブースが10台あり、DVDやビデオの視聴を楽しむことができます。

【研究室を訪ねて】

西岡 哲平
建築学科・教授



コンピュータを使った
室内環境の研究



私の研究室は建築学科に所属し建築環境工学・設備に関する研究を行っています。近年、「低炭素」指向の建築やエネルギー利用が厳しく求められるようになりました。化石燃料の十分な資源のない日本では、このような社会の流れを「自然エネルギー利用」と「エネルギー利用効率の向上」の契機として前進させて行く事が重要です。

私の研究室では建築環境の中でも特に住宅のエネルギー利用技術を中心に行なってきました。私の本学での研究キヤリアは自治体から委託された「屋根融雪システム」の研究から始まりました。この時、「雪対策」に貴重なエネルギーを浪費して良いのかという問題を考えるうちに私が現在研究しているエネルギーの質を表す「エクセルギー」的重要性に気付きました。

私は本学に着任した昭和六十年代は「五十六年豪雪」の直後で、各地の大学に「屋根雪の処理技術」に関する研究依頼が持ち込まれてきました。私は富山県で実験を行い、同県の「融雪屋根モデル住宅」なるもの

を建設するお手伝いをしました。しかし、その後、「気候温暖化」の進行により、北陸地方では典型的な「少雪期」に入った事もあり、ついに「屋根融雪」システムは普及しませんでした。その原因是社会的ニーズの低下以外に幾つかの技術的問題があります。

しかし、雪対策自体がローカルなテーマで、一般的メディアで取り上げる事はないので、この場を借りて、少し述べみたいと思います。

「屋根融雪」の技術的な問題点は融雪には大量の熱エネルギーが必要で、効率の良い熱利用が不可欠ですが、実際にはこれが非常に困難な事です。例えば道路用の「融雪パイプ」のような散水式（完全融雪式）は技術的に容易ですが、熱利用効率が非常に悪いエネルギーの質を表す「エクセルギー」の重要性に気付きました。

私は、この問題を解決するため、建築環境工学の知識を駆使して、建築物のエネルギー消費量を減らす方法を研究開発しました。その結果、建築物のエネルギー消費量を大幅に削減する方法を見つけることができました。

そこで、この技術を実験棟に適用してみたところ、効果が非常に大きかったのです。これにより、建築物のエネルギー消費量を大幅に削減する方法を見つけることができました。

「屋根融雪」から「エクセルギー」へ



日射反射シートの実験棟

湯に燃やす事はエネルギー利用としては得策でない事、又、住宅用に高価なコジェネレーションを導入する利点も最新の火力発電所の発電効率の向上によって非常に低下しています。暖房・給湯のような低温の熱需要にはヒートポンプを用いるのが最も熱効率が高く、コストも安いのです。住宅の「オール電化」が急速に普及している理由もここにあります。住宅のエネルギー消費は国全体のエネルギー需給や環境、経済活動に大きな影響を与えます。今後活動に大きな影響を与えるます。今後「エクセルギー」の概念に立脚したエネルギー戦略の確立が必要と考えます。

【研究室を訪ねて】

寺田 郁一

経営情報学科 教授



魚口ボットから 沿岸情報監視システムへ

柔らかい板を水中で振動させると推進力が得られます。弾性体と流体との相互作用で力が生まれるのであります。この技術は船舶の推進技術の一つとして知られています。

最近、コンピュータ技術や自動制御技術が発達しましたので、柔らかい振動翼（ひれ）をうまく制御して

推進力を効果的に得ることが可能になりました。目標速度などの要求運動特性に合わせて振動翼の振幅と振動数および位相をコンピュータ制御します。この制御法では、一つのアクチュエータ（装置）で推進力と力の方向を同時に制御できますので水



(写真1) 鯛型の魚口ボットの遊泳

クスとしてギネスブックに認定されました。（写真1）

最近では、南アフリカで進められている「シーラカンスの保護」計画の啓蒙活動にシーラカンス・ロボットが活用されています。（写真2）



(写真2) シーラカンス・ロボット

中におけるビーカー（航走体）の三次元運動を容易に実現できます。私はこの技術を使って、魚口ボットを開発しました。魚の滑らかな動きを再現して水槽内で実際に氷がせたのです。これが「本物そっくりの魚口ボット」として評判を呼び、世界初の水中アニマトロニ

クスとしてギネスブックに認定されました。（写真1）

また国内でも反響があり、その遊泳写真が中学校の教科書にも掲載されました。子供達に夢を与えるようなロボット開発が、技術立国日本の将来を背負う人材育成の一助になるという訳です。

また、魚口ボットは、愛知万博で「金の鰐口ボット」として再現され

好評を得ました。さらにテレビドラマ「華麗なる一族」のクライマックシーンで「黄金のコイ・ロボット」として出現し話題になりました。最近では、南アフリカで進められている「シーラカンスの保護」計画の啓蒙活動にシーラカンス・ロボットが活用されています。（写真2）

のソフトウェア技術を用いたロボット指令システムの設計ならびに魚口ボットを用いた海のセキュリティシステムなどの検討を進めています。（写真3）



(写真3) 実験風景 (福井テレビ提供)

狭く入り組んだ海岸地域で、人工衛星やレーダでは捉えきれないような小さな船舶の出入りをチエックする目的で、常時、魚口ボットを情報収集センサー（機器）として海に回遊させておけば、不法入国や密輸入の防止に役立つはずです。

本学に 赴任して



機械工学科
河野 託也
講師

あ

つという間に、本学での一年が過ぎました。昨年四月に茨城県つくば市から本学機械工学科の口ポット開発コースに赴任しました。私の出身は岐阜県多治見市です。多治見市の夏は、埼玉県熊谷市と競い合いもの凄く暑くなることで知られています。冬は、太平洋側の天候と同じで晴れる日が多いですが、放射冷却によりよく冷え、空気は乾燥します。福井市内から多治見市までは、自動車で楽に帰省できる距離になりました。しかし、親子三代で雪搔きをする様子であったり、子どもが雪搔き作業も遊びに変えてしまった姿に癒され元気を頂くと共に、先生方の力添えにより充実した日々を過ごすことができました。

大学教員としての仕事を初めて行うことになったこの一年、学生の教育や研究活動を行う中で大学の存在意義や教員として果たすべき事は、何であろうかと考えてきました。現社会は、インターネットを使い色々な情報を得られるばかりか、検索する側の意欲により

大学に通う事なしに、学びたい事や得たい知識を簡単に入手できます。では、知を教える他に大学の存在意義は何であるのかと考えさせられます。それは、大勢の人たちが実際に集まる場所であり、学生にとっては、実社会に出る前に様々な事を体験・経験できる場所ではないでしょうか。就職難と言われる昨今ですが、多くの企業の新卒者採用選考において最も重視される点は、コミュニケーション能力や協調性と言われます。インターネット上では、これらの能力を鍛え磨くことは困難ですが、大勢の人びとが集まる大学は、これらの能力を養う最高の場所です。本学では、これらの能力

を人間力という言葉で表し、専門分野の授業とは別に、人間力を養成する数多くの授業を設けています。また、担当教員制により一年生から四年生までの学生一人一人に、担当教員が必ず一人おり、学習面から生活面についての話を聞いたり、指導・サポートを行っています。地区懇談会の席においても、親御様から色々な人と関わり会う中で、人間力を養つて欲しいとのご意見を実際に頂きました。これらの授業や卒業研究の指導を通して、人間力と専門知識を身に付けた学生を世に送り出すことが私たち教職員のなすべき事であると思っていました。



経営情報学科
千葉 賢
講師

ます。

最後に、私の専門分野を紹介します。私は今まで主に中性原子のレーザー冷却の実験を行ってきました。この分野は、一九九七年、二〇〇〇年および二〇〇五年とこの十五年間に三度もノーベル物理学賞受賞者を輩

出しています。さらに、受賞対象となつた論文発表の五から十年以内に同賞を受賞している点から、これらの研究が、いかに現社会や現代物理学に対して価値のある発見や発明であるのかを伺えます。このように私の専門分野では大きなブレークスルーが最近に立て続けに起き、それらを利用して、現在も研究が発展しています。この分野は物理的にも実験技術的にも非常に奥が深く面白いため、今後もこの研究を続けて行く予定です。ただし、長いこと同じ分野で研究を続けていると視野が狭くなりがちであり、幅広い視点を持ち続けられるように心掛けたいとも思っています。現在、私は、レーザー冷却技術の一つの応用である光格子時計という日本発祥の技術を利用した光時計の実験的研究開発に携わっています。実験的という意味は、ものを実際に作ることであり、その過程において機械工学で学ぶ知識が非常に重要です。また、既製品は存在しないため、自らが設計から試作・製作・評価まで行っていきます。本研究から得た経験を生かし、本学学生に実践的な技術や知識の教授に少しでも貢献したいと思っております。

いもので本学に赴任してから一年が経とうとしています。出身が新潟であることから、冬の北陸の天候はある程度予想はついていたのですが、冬の雷の多さや雪の量には衝撃を受けたことも事実です。また、本年度は教員一年目であったことも事実です。また、分も多々ありました。が、周囲の方々の温かい力添えを

頂き充実した日々を過ごすことが出来ました。

私の専門分野は計量経済学と呼ばれるもので、一言で言えば様々な経済事象を表現する数式モデルを構築したり、検証したりする学問です。一見、工業大学の教員が専門にするには違和感を持たれる方もおられるかもしれません。が、経済学は物理学や制御工学といった理学・工学の分野と密接に関連した学問であり、現在は理系的な素養が必要不可欠な分野となってきたというのが実情です。マーケティング・サイエンスやオペレーションズ・リサーチといった経営工学と似通った分野と思つて頂ければ分かりやすいかもしれません。実社会でもシンクタンクや金融機関を中心にニーズの高い分野なのですが、現在の理科離れ・数学嫌いという流れの中では敬遠されがちな分野になつていてるらしく、入学生の嗜好と社会のニーズのギャップを感じていることも事実です。来年度新設される産業ビジネス学科では実社会のニーズに即した職業人を育成する事が課題となつてることから、このギャップを少しでも縮めることができるように教員として努力していくことを考えていました。

この一年私が担当した講義は基礎数学・線形代数学・微分積分学・統計学・多変量解析です。いずれも、経営情報学科の学生にとっては大事な基礎科目です。当初、担当する科目を知ったときは、文系出身の自分が理工系の科目を講義して良いか自信が持てなかつたのですが、実際に講義を行つてその実態が理解出来ました。経営情報学科に入学してくる学生の相当数が、経営情報学を学ぶ上で必要な数学的基礎学力が不十分なのです。当初は伝統的な板書スタイルで授業を行つていまつたが、一方的な講義になつてしまつたため、パワーポイントを使用することで直感が働き易くするだけではなく、小テストを課すことで毎回の授業で重要なポイントを実感できるよう工夫しました。効果がどれほどあつたかは定かではありませんが、シャトルノート等を通じて学生の授業に対する意見を取り入れていきました。

いたと考えています。

学生が大学で学習し研究することは、今後の人生において大きな糧になるだけでなく、様々な出会いがあります。本学で過ごす四年間が良い出会いになつたと実感できるような場を提供できるよう日々努力しています。



教養部
入学直哉
講師

本プログラムの導入に伴い、平成二十二年度入学生からは従来までのいわゆる教養英語ではなく工学英語を学ぶことになりました。テキストも工学部の専門教員が厳選した英文の素材を英語教員が講義で使える形に加工し、練習問題等を加えて本学独自のものを開発しています。昨年度、私は一年生の基礎工学英語を担当しましたが、講義名の通りテキストの内容が地球温暖化やエネルギー問題、気象観測など学生の専門に沿った自然科学を扱つたものであるため、アンケートの結果などからも興味を持つて受講した学生が多かつたよう思います。ただ授業の進め方に関しては試行錯誤を重ねました。授業評価アンケートやシャトルノートの学生からのコメントを参考にして補助教材の形式や内容を少しずつ改良しながらの一年でした。幸い本学には非常に真面目で素直な学生が多く、授業自体は大変やりやすかつたです。

私は初めての土地であり、特に九州生まれの私にとって冬の厳しさは覚悟をしていましたが今年の大雪は想像を絶するものでした。その冬もどうにか乗り越え福井での生活もようやく一年が過ぎました。

私の専門分野は言語学です。主に英語を対象として言語変化のメカニズムの解明や人間の認知能力と言語表現との関係について研究をしています。地球上に存在するすべての自然言語は長い年月を経て音韻・形態・文法・意味などの点において様々な変化を被り現在のような姿になりました。十年、二十年の単位ではこのような変化を感じ取ることは難しいですが、私達が日常使つてゐる現代日本語も今なお確実に変化し続けています。もちろん英語も同様です。言語研究によつて新たな知識が日々発掘されています。私はそのような成果を実際の教育の現場に還元することを常に心がけています。

工学部の学生にとって英語は専門とは関係のない教養科目に過ぎないかもしれません。が、やはり将来において語学力を身に付けておくことは大切なことだと思います。例えば就職活動においても専門関係の資格以外にTOEICのスコアを取得していればそれは大きな武器になります。一年次から目標を定めて語学関連の資格取得を目指してもらいたいと思います。そのためのサポートは出来る限りしていきたいと考えています。

本学は平成二十一年度文部科学省大学教育推進プログラムに「入学初年次から学ぶ工学英語」が採択されました。私も着任一年目から工学英語教育センター委員として本プログラムに参加させて頂いております。

に貢献



「未来塾」開講

開講



▼本年度は一回開催

平成二十一年度は、七月四日に脳科学者の澤口俊之氏を招いて「頭をよくする脳科学」をテーマに、また十一月二十八日にはフリー・アナウンサーの大村正樹氏を招いて「思わずうなづく話し方！僕はこうして『情報プレゼンター』になった」をテーマにと、二回の講演会を開催した。お二方とも丁寧ではお馴染みの方々であり、解り易い口調で興味深いお話を語っていただいた。参加者数は、二回で延べ約八六〇人のぼったが、皆さんメモを取り質問を投げかけたりと熱心に聴講していただいた。

「公開講座、

市民ふれあい教室」開講

▼公開講座

中山龍彦氏)の各講演と、本学教員をパネラーとした市民討論会が開催された。

前期・後期の二回を実施し、前期は六月九日に「これから原子力エネルギー」(福井から)のエネルギー先端技術の展開・発信」と題し、①「もんじゅ」の現状と将来の研究開発」(JAEA敦賀本部大平博昭氏)、②「4S 小型高速炉への取組み」(株式会社東芝電力システム社北島裕子氏)、③「レーザー技術の原子力エネルギー開発、産業への貢献」(JAEA敦賀本部大道博行氏)、④「レーザー核融合」(本学原子力技術応用工学科教授

講座への参加者は前・後期合わせて五七〇名。スポーツ・武道から先端技術まで、幅広い学びの領域に皆興味深く耳を傾けていた様子であった。



社会

▼市民ふれあい教室

六月から十一月にかけて全部で二十一回の市民向け教室を実施。理工学から文学、社会学に至るまで幅広いテーマで開講した。女性限定のテーマであったり、水泳教室や見学ツアーなど趣向を凝らしたものであつたりと、内容も盛り沢山であつた。参加者は延べ三七三名と多くの方に「新たな学びの場」をご利用いただいた。



TOPICS

学園レストランが新しくなりました



Renewal Open

イス・テーブル・内装全てを一新!きれいで明るい学園レストランに生まれ変わりました!!メニューも先輩たちの意見を取り入れた新メニューを設定♪バリエーション豊富なメニューの中から自分だけのお気に入りを探してみて!みんな学園レストランに集まれ~!!

団らんスペース

団らんスペースを設置!!レストランの奥には落ち着いた雰囲気の団らんスペースを設置☆カフェのようなお洒落な空間になっています☆ここではケーキなどのスイーツも販売するので、空いた時間に友達とゆっくりしちゃって~♪



がんばつてます

理事長賞・学長賞

二月十五日の学位記授与式において次の学生が受賞しました。

理事長賞

電気電子情報工学科 佐野 允一

建設工学科 土木環境工学専攻 奥田 雄也

経営情報学科 経営システム工学専攻 屋敷 仁人

経営情報学科 経営システム工学専攻 宮嶋 健太

理事長特別賞

建設工学科 建築学専攻 北島 遼

学長賞

電気電子工学科 齊藤 拓海

機械工学科 田島 辰樹



齊藤君



北島君



田島君



屋敷君



佐野君



宮嶋君



奥田君

創成科学賞

「創成科学」は、通常の教室での授業や実験とは異なり、学生自身が自らの考えに基づき、それまでに修得した知識の創造的な応用によって、自分が選んだ課題を解決していく授業です。その結果、優秀な研究を行った学生に対して、その努力と成果を表彰します。今回の受賞者は次のとおりです。

【十二年度後期】

◎優秀賞

建設工学科 建築学専攻 三年

今井 誠貴

「防災グッズの

ホームセンターでの品揃えと

被災地の声との比較」

建設工学科 二年

山田 章太

◎努力賞

機械工学科 二年

畠 佳揮

「[EQ]について」

経営情報学科 二年

畠 翔



畠君

山田君

今井君

特別奨励金(平成22年度)

公的資格の取得、また、各種競技大会で優秀な成績を修めた学生に対し規程に基づき支給されました。

資格・成績など	奨励金額	人數
技術士(建設部門)	¥200,000	1名
技術士補	¥200,000	2名
土木学会認定 2級技術者	¥100,000	2名
2級建築士	¥100,000	2名
第2種放射線取扱主任者	¥100,000	6名
第3種電気主任技術者	¥100,000	2名
2級福祉住環境コーディネーター	¥50,000	9名
基本情報技術者	¥50,000	8名
第一種電気工事士	¥50,000	6名
日商簿記検定 2級	¥50,000	2名
消防設備士 甲種4類	¥50,000	1名
宅地建物取引主任資格	¥50,000	4名
3級福祉住環境コーディネーター	¥10,000	7名
第2種電気工事士	¥10,000	1名
CGエンジニア検定画像処理部門 2級	¥10,000	1名
CGクリエーター検定Webデザイン部門 2級	¥10,000	1名
2級土木施工管理技術検定(学科)	¥10,000	1名
危険物取扱者(乙種全類)	¥5,000	4名
CAD利用技術者 2級	¥5,000	1名
ITパスポート	¥5,000	3名
Microsoft office Access 2007	¥5,000	1名
MCAS Excel 2003	¥5,000	1名
MCAS Excel 2007	¥5,000	10名
MCAS Word 2007	¥5,000	12名
MCAS Power Point 2007	¥5,000	1名
日本漢字能力検定 2級	¥5,000	1名
ロボカップジャパンオープン2010大阪マイクロロボットMixed Reality部門準優勝	¥50,000	橋本・森

建設工学科	建築学科
経営情報学科	マルチメディア工学専攻
宇宙通信工学科	環境・生命未来工学科

赤松	斎藤陽一郎	長谷川喬之	寺澤	宏基	和彦
嵩明					



◎ 優秀賞
「竹とんぼ重量配分による滯空時間の変化」

原子力技術応用工学科 2年	清水 恒輝	「紅茶を用いた色素増感太陽電池の作製」
デザイン学科 2年	武長 謙亮	「太陽電池の作製」
環境生命工学科 2年	北川 翔一	



〔十二年度前期〕

Club Introduction

クラブ紹介

►►硬式野球部

全国大会出場回数“日本一”!!
野球を通じての人間形成、大学を通じて
の人生設計で自分の未来を広げます。

硬式野球部は、本年度の新入生を合わせ部員数は総勢101人となりました。

練習は、毎日授業終了後に始まります。文武両道3月にキャンプが始まり、4月に春季リーグ戦、9月に秋季リーグ戦があります。部員は神宮大会出場に向け日々厳しい練習を励んでいます。



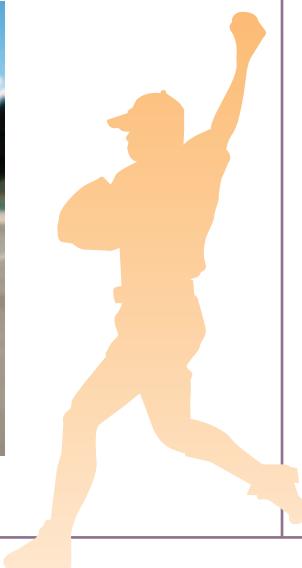
練習場は、昨年に完成しましたカール・マイヤー球場で行い、雨天の日や冬になりますと室内練習場で練習を行います。カール・マイヤー球場は両翼100m、センター122m、ナイター設備も整っています。これにより選手たちは、内容の濃い練習を行うことができます。カール・マイヤー球場での練習試合もたくさん組んでおり、常に実戦に近い形で練習を行っています。

室内練習場は、全面人工芝で打撃練習4ヶ所、ブルペン3ヶ所、ティーバッティング4ヶ所を同時に使うことができますので十分に練習できるスペースがあり、2階には筋力トレーニング器具も完備されています。選手たちは目標を持って練習に取り組み、全国大会を目指しています。

今年は全国大会出場を後援会の皆様に報告できるようがんばりますので、これからも熱いご支援とご声援を宜しくお願い致します。



カール・マイヤー球場





平成23年度 定期総会及び 地区懇談会のご案内

地区懇談会は、学生の成績・日常生活・就職などの諸問題について、
先生と保護者が個別に話し合える絶好の機会です。
ご都合のよい会場を選んで是非ご出席ください。

参 加 申 込 方 法

①投函にてお申し込みの場合



「平成23年度 定期総会及び地区懇談会のご案内」を
別便にてお送りいたします。
同封の参加申込書を返信用封筒にてお送り下さい。



②電話・メールにてお申し込みの場合

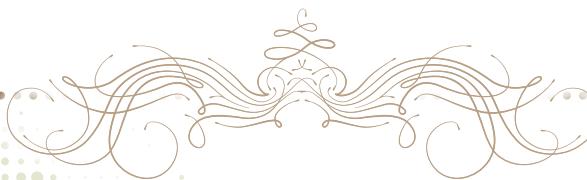
TEL 0776-29-7864
E-mail syomu-u@fukui-ut.ac.jp

③ホームページ・FAXにてお申し込みの場合



本学ホームページより申込書をダウンロードの上、メール又はFAXでお送り下さい。
ホームページアドレス
<http://www.fukui-ut.ac.jp/> (保護者の方のサイトへ)
FAX 0776-29-7891

申込期限:5月9日(月)



5/28(土) 福井キャンパスにて

13:00 ~

平成23年度後援会定期総会

【議題】

- ・平成22年度収支決算報告、事業報告
- ・平成23年度会計予算、事業計画
- ・平成23年度 役員改選
- ・その他

ご都合でご出席いただけない場合は
「委任状」(別便にて郵送します) をご提出下さい。

14:00 ~

地区懇談会（福井地区）

各学科教員との個人懇談会

ご子息・ご息女の学生生活、学業、部活就職活動等、どんなことでも
ご遠慮なくご相談下さい。

6/5(日) ~ 26(日) 全国17会場にて

13:30 ~

地区懇談会

学業・就職・大学生活等お気軽にご相談下さい。

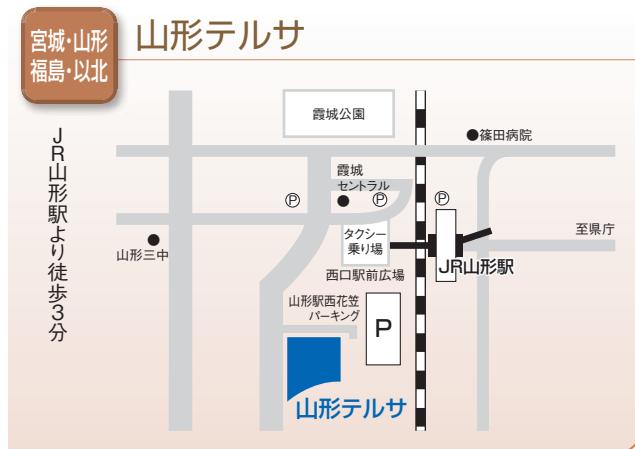
→ 詳細は22~24ページをご覧下さい。

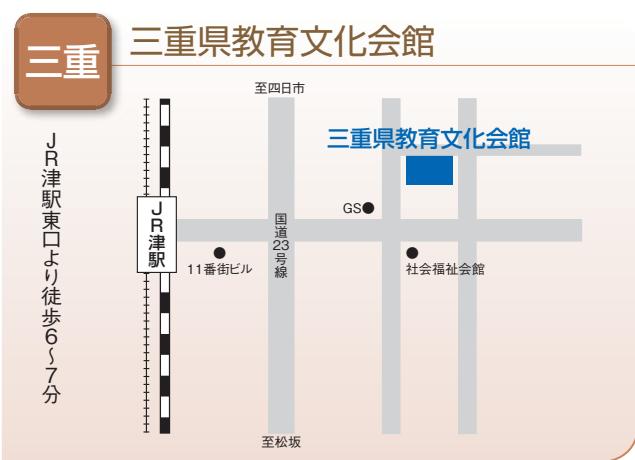
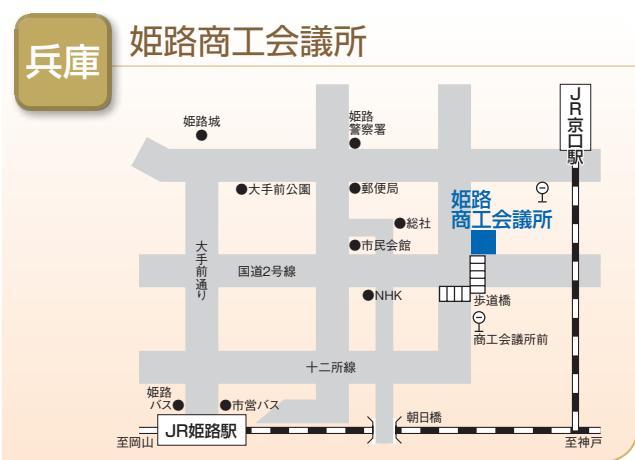
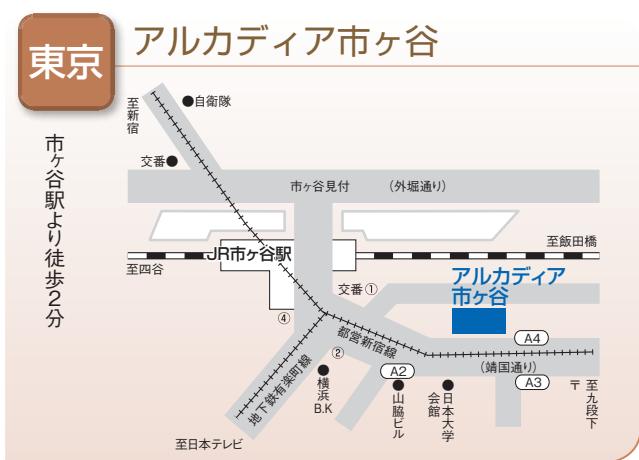
定期総会及び地区懇談会の申込書 及び 委任状は
別便にてお送りいたします。

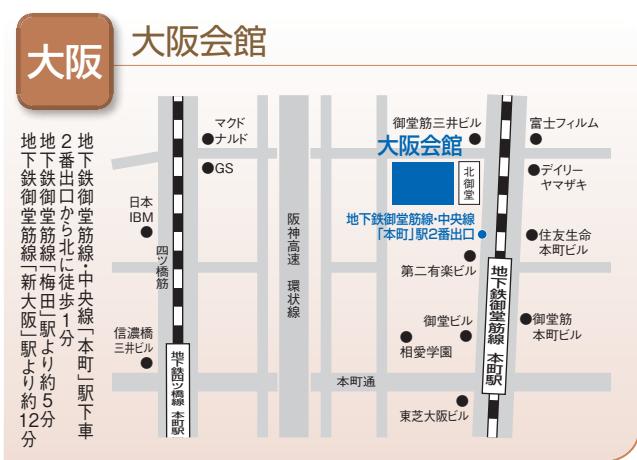
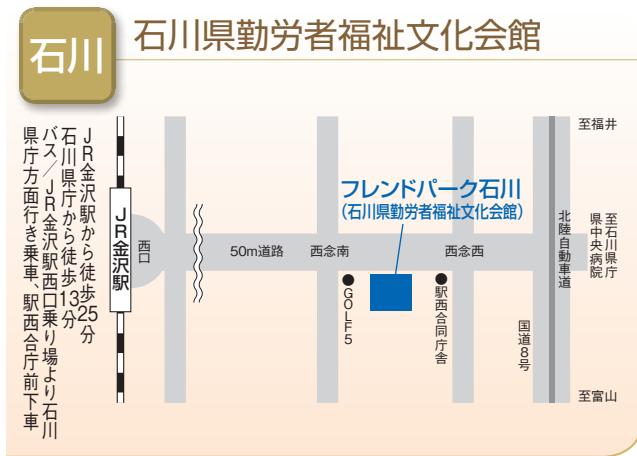
地区懇談会 開催案内

地 区	日 程	会 場	電話番号
福 井	5月28日(土) 総会終了後14:00～	福井工業大学	福井市学園3-6-1 0776-29-7864
宮城・山形 福島・以北	6月5日(日) 開会13:30～	山形テルサ	山形市双葉町1-2-3 023-646-6677
京 都	6月5日(日) 開会13:30～	京都教育文化センター	京都市左京区聖護院川原町4-13 075-771-4221
滋 賀	6月5日(日) 開会13:30～	彦根勤労福祉会館	彦根市大東町4番28号 0749-23-4141
兵 庫	6月5日(日) 開会13:30～	姫路商工会議所	姫路市下寺町43 079-223-6551
東 京	6月5日(日) 開会13:30～	アルカディア市ヶ谷	東京都千代田区九段北4-2-25 03-3261-9921
三 重	6月12日(日) 開会13:30～	三重県教育文化会館	津市桜橋2-142 059-228-1122
和歌山	6月12日(日) 開会13:30～	和歌山商工会議所	和歌山市西汀丁36番地 074-422-1111
福知山	6月12日(日) 開会13:30～	中丹勤労者福祉会館	福知山市昭和新町105番地 0773-23-2216
新 潟	6月19日(日) 開会13:30～	新潟商工会議所中央会館	新潟市中央区上大川前通7-1243 025-290-4411
愛 知	6月19日(日) 開会13:30～	ウインクあいち	名古屋市中村区名駅4丁目4-38 052-571-6131
石 川	6月19日(日) 開会13:30～	石川県勤労者福祉文化会館	金沢市西念3丁目3番5号 076-234-2421
四 国	6月19日(日) 開会13:30～	徳島市立文化センター	徳島市徳島町城内1番地 088-653-2185
岐 阜	6月26日(日) 開会13:30～	岐阜県民ふれあい会館	岐阜市藪田南5丁目14番53号 058-277-1180
大 阪	6月26日(日) 開会13:30～	大阪会館	大阪市中央区本町4丁目1番52号 06-6261-9351
長 野	6月26日(日) 開会13:30～	JA長野県ビル	長野市大字南長野北石堂町1177-3 026-236-3600
富 山	6月26日(日) 開会13:30～	富山県教育文化会館	富山市舟橋北町7-1 076-441-8635
静 岡	6月26日(日) 開会13:30～	静岡商工会議所会館	静岡市葵区黒金町20-8 054-253-5111

※駐車場に限りがありますので、なるべく公共交通機関等でのご来場にご協力をお願いいたします。







【平成23年度】学年暦

前 期

平成23年	4月1日(金)	学年開始
	4月5日(火)	入学式
	4月6日(水)～12日(火)	全体オリエンテーション 学科別オリエンテーション 前期受講登録ガイダンス Web受講登録講習会 「自然と科学」集中講義 健康診断
	4月13日(水)	前期授業開始(全学年)
	4月19日(火)～21日(木)	永平寺参禪研修(1年生学科別)
	5月21日(土)～22日(日)	五月祭
	8月7日(日)～9月25日(日)	夏季休業
	9月26日(月)～28日(水)	「自然と科学」集中講義
	9月26日(月)～30日(金)	後期受講登録ガイダンス
	9月30日(金)	前期終了

後 期

	10月1日(土)	後期開始
	10月8日(土)～10日(月)	大学祭
	10月11日(火)	大学祭閉会式
	10月12日(水)	代休
	12月23日(金) ～平成24年1月9日(月)	冬季休業
平成24年	1月10日(火)	後期授業再開
	1月中旬	学園成人式(式典)
	1月下旬	卒業研究発表
	2月11日(土)～3月31日(土)	春季休業
	3月15日(木)	学位記授与式
	3月31日(土)	学年終了



三月十五日の学位記授与式当日、
卒業記念品として「スノースロワー」
一台が贈られた。

すべてを学生のために

最先端の設備を備え、最先端工学を学ぶステージ。
それぞれの能力・適性・興味に応じて
一人ひとりの人生の可能性を限りなく広げます。



福井工業大学

Fukui University of Technology